

同期会・同級会便り 1期(1950年3月卒)のページにようこそ!!!

*同期会・同級会など同期の仲間との集まり、地元での活躍等の情報をお寄せください。

1期の皆さんからの寄稿をお待ちしています。

*寄稿に当たっては、卒業期(或いは卒業年月)、氏名(含む旧姓)を必ずご記入ください。

寄稿の宛先は：市川二中同総会事務局 住所：〒272-0825 市川市須和田2-34-1

E-mail：2chu@kde.biglobe.ne.jp

*1期のホームページもあります。トップページの「皆さんの頁」から入って、ご覧ください。

*会報1号(1998年)から

☆いまでも青春

1期 D組 岸田 弘

第一期生は、二中の創立50年に向けて、同期会を15年ぶりに平成元年11月23日に開き、以後オリンピックの開催の年に行うことになってきている。しかし、4年に1回ではなんとなく長すぎるので、平成3年におにぎり会が発足した。この会はおにぎりを食べながら昔を思い出しておしゃべりをしようというもので、すごく楽しい。春は桜の咲く時期で武蔵野の面影を残す多摩湖に隣接する狭山公園で、それこそ花より団子ではなく、おしゃべりに花が咲き青春をしている。

平成7年から同期会のない年に秋にも開き、中学時代に遠足で行った場所に行く事になっている。しかし、これだけではすぐに卒業しちゃうということで、一年の高尾山、二年の鎌倉・江ノ島で行っていない所に変更し、多数決または声の大きい人の希望で行き先を決定している。

いまでも青春であり希望者はだれでもオーケーですので、どうぞ参加してください。

*会報4号(2001年)から

★ミレニアム一期会に

参加して

1期B組 小林(竹本) 郁子

2001年11月23日

「恒例の写真撮影です。今回は男性、女性でいきましよう」。主催者側、先生方の挨拶、乾杯の後、岡田愛ちゃんカメラマンの呼びかけで、先生方を中心に金屏風の前で、先生6名(小倉、草深、飯盛、佐藤、田村、笈川先生)、生徒71名(男性45名、女性26名)、あのただっぴろい兵舎跡の校庭で卒業式を終えてから50年経た顔、顔。様々な道を歩まれた50年であるが、明るく穏やかな雰囲気満ちているように私は感じた。89年11月23日久しぶりに同期会が開かれ、以後オリンピックの年毎にと今回の四回目は丁度ミレニアムの年となった。

一回目は参加者総数100名(先生12名)を超え、中学のころの話があつちでも、こつちでも次々と飛び交い、思い出の渦のなかで気持ち昂り、楽しかった。四回目になると男女共、現在の暮らしや思いを昔の呼び名、イヨちゃん、タカマちゃん、睦ちゃんと呼び合っていて話している。何枚も覆っていた柵(しがらみ)がさらっと落ちた豊かな楽しさだ。

四年の間に亡くなられた方がある。今回、初参加の方もおられた。四年後には70歳か69歳。若さ、澁刺さは皆様変わらないで



しよう。が、中学の時は想像する範疇になかった年齢、70歳は高齢と認めねばなるまい。こうした集いを好まない方、関心のない方、2004年の集いには、一度出ていらいやいませんか。私自身、自信はありませんが、二中時代を共に過ごした先生方と生徒達、一人でも多くの方に逢えるのを楽しみに次回を待つことにします。

初めてのクラス会

1期B組 岸田 弘

第一期三年B組金八先生でなく田村先生、千葉先生（故人）は、クラス会を平成十四年十一月二十三日に卒業してから実に五十二年ぶりに開催した。一期同期会が四年に一度であるので、前回の同期会でB組の出席者全員から、期間が空き過ぎるのでクラス会を開いて欲しいとのことで、その中間で同じ十一月二十三日と会場も階数は違うが山崎厚生年金会館で初めて開催したという次第である。

クラス会は同期会と違い卒業した時の三年B組のまま、少年少女が昔よりちょっとお喋りになりお酒を飲めるようになったこととお孫さんがおられるというところが変わったところ。市場調査ならぬクラス全員からのアンケートにより、女性の帰宅時間を考慮して、三時から始めたが二次会、三次会と続き大変楽しく盛り上がった。盛り上がり方は、まとまりがつかなくらいで、一次会はお酒少々と食事であったが、二次会、三次会はお酒もつまみもいらなくらい、まさに「おしゃべり会」といったところであった。

一次会の出席者は先生一名、女性六名、男性十名の計十七名。クラス会でも「おにぎり会」が話題

になり、会員が増加した。

同窓会―同期会―クラス会―おにぎり会（毎年一回）と連動して、おにぎり会は同期会の幹事の会から小同期会に、そして「おにぎり会」（春は花見、秋は遠足：行き先は平成十六年まで決まっている）は、今年秋は十月二十五日（土）鎌倉（東慶寺）浄智寺（名月院）源氏山公園（銭洗弁天）。いまや他の期の人も参加する会に発展しているの、参加希望者は岸田までお申し込み下さい。

*会報7号(2004年)から

市川、桜めぐり

1期D組 山田 齊



1期生は各クラスの幹事中心に20人位が毎年岸田君宅をお休み所に、すぐ側の狭山公園でお花見を20年近く続けております（おにぎり会）。

今年が多摩湖の改修工事で閉鎖され市川に変更。文学の道、須和田公園、真間山、野球場、里見公園、専業池緑地とお花見し、拙宅で休憩というコースで楽しみました。来年は何処に行くのか、近くで良い所があったら、後輩のみなさん乞うご一報。

*会報10号(2007年)から

7人の恩師をお迎えして 一期会開催

平成18年11月23日
1期 天野 睦子

2年ごとの開催となった今回の「一期会」は、櫻井慶治・濱田龍二・佐藤千壽子・飯盛宏・鹿倉操・田村三雄・中村櫻（順不同）の7人も先生方をお迎えして1期生60名総勢67名が恒例の山崎製パン年金会館に集い、楽しく盛大に行われた。

二中創立60年を間近にして先生方のご挨拶には開校した真間小・間借り時代、学校で寝起きしていたことや須和田が丘の泥んこ道でよく滑ったこと。お腹が空いていたけれど先生も親も生徒も頑張って輝いていた、と思いを誘う話題が相次いだ。

久しぶりに関西からご出席された濱田先生は、最近まで現役の管財人をされていたという勢い漲る83歳。信じられない若さに教え子から感嘆の声が上がった。

珍しくお出ましなつた櫻井先生87歳は洋画壇の重鎮。「中国で弾にも当たらず帰国して美術を担当」と破顔一笑。今年の日展出品作の絵葉書と画歴の書付を全員に贈られ、奥様の介護のためとんぼ返りされた。

教え子たちは若々しく元気な先生方に圧倒される一方、女性陣は留守を夫にまかせての旅行の約束をしたり、「いまは良い時代」と笑顔が広がった。そして男女が同じテーブルを囲む初の試みで会話が

弾んだ。恒例の校歌斉唱では伴奏の宇野澤璋さんから校歌の作詞者・濱田佐賀衛氏は濱田先生のご尊父で、高名な国文学者。作曲の平井保喜通称・康三郎氏も優れた歌曲を残したと紹介があり。一同心を込めて斉唱した。



最後に、同窓会への賛助金を呼び掛け7万6千円もの寄付を頂戴したことをご報告します。

付記 山田齊さんから一期会代表幹事を引き継がれた桑村益夫さんは今回の一期会の準備と並行して、日中の草の根交流に努力を重ねられ、市川二中の齋藤校長のお手紙と生徒の作品を携えて12月、湖州十二中を訪問、盛大な歓迎を受けられたということです。



＊会報 12号(2009年)から

「一期会」11月23日開催

1期 天野 睦子

平成21年春から後期高齢者となる1期生46人は、山崎・パン年金会館に濱田龍二・佐藤千壽子・飯盛宏・鹿倉操・田村三雄・中村樺の6先生をお迎えし感慨深い時を過した。会場には「懐かしの二中展」の



写真が並び、あの困難な時代に苦闘した先生方の思い出話に、父母の姿や輝いていた在りし日の少年少女の顔が蘇った。桑村代表から並木一朗さんの叙勲、欠席者の消息、内田勝也先生ほかの訃報の披露。岡田さんが記念撮影、最後に校歌を斉唱、互いに無事な再会を祈った。

「叙勲」に際し思うこと

1期 並木 一朗

平成20年秋の文化の日、はからずも、瑞宝双光章授受の栄に浴し、11月7日中曾根外務大臣から勲記、勲章の伝達を受け、天皇陛下に拝謁の栄を賜りました。小生は市川で生まれ、市川で育ち、外務省退官後の現在に至る迄市川に居を構えております。今回の叙勲に当たりまして、自分が市川の間人であること、「二中」の卒業生であることに誇りと名誉を改めて感じております。

私共第1期生は、太平洋戦争後に発足した新制中学の最初の卒業生でもあります。開校の当時は、まだ学校としての校舎もなく、運動場作りの地均し、そして校舎作りの材木運びから始めたのです。先生方も若い先生が主でしたが、教育に熱心で情熱を持って厳しく私共の指導にあたってくれ、そのお姿は校舎建設の想い出とともに今でも忘れることはできません。

小生の外務省勤務は、海外が長く、ドミニカ共和国、スペイン、メキシコ、アメリカの各大使館で通算22年ほどになります。今、改めて思いますことは、「二中」時代に鍛えられた心身は、その後の小生の人生において、いくつもの困難に遭遇した場面をなんとか切り抜けてこられた基礎作りになったのではなにかと、今も健康でいられることとあわせ、とても感謝していることです。

＊会報 13号(2010年)から

まだ中学生のままの「おにぎり会」

1期B組 岸田 弘

「おにぎり会」は、おにぎりを食べながら昔話をする会として発足したが、1期生ばかりでなく、わずかではあるが、先生・3期生・5期生、ときには16期生も参加している。

第1回は'91年に開始されて、今年3回開催され、基本的には1月「七福神めぐり」、4月「お花見」、10月「東京近郊の散策」である。

「七福神めぐり」は、1年の健康を祈念して4〜6km歩きながらのおしゃべりと、最終地での喫茶店のおしゃべりが楽しい。

4月の「お花見」は、各自が、おにぎり・ちらし寿司・各種つまみ





・酒・飲物を持参して交換しながら車座でのおしゃべりには昔話がつきない。ここ数年は「多摩湖」の堤防の耐震工事のため、「市川」、「多摩森林公園、武蔵野陵墓」、「新宿御苑」、「小金井公園」と場所を変えたが、09年は「多摩湖（狭山公園）」が復活した。

秋の散策は、「高麗の里（巾着田）」、「沼津御用邸記念公園」、「六義園・旧古河庭園」、「真鶴半島」、「神代植物園」に行った。

10年は第38回：1月7日「池上七福神」、第39回：4月3日「多摩湖（狭山公園）」第40回：10月23日「鎌倉（浄妙寺、報国寺「竹寺」、杉本寺）」で、11年は、第41回：1月「東海七福神」、第42回：4月「市川お花見」、第43回：10月「都内名所散策」の予定で、どなたでも参加できますので、ご希望の方は左記に連絡してください。

1期生は、2年に1回同期会（10年予定）を開催しているが、B組はその間の年にクラス会を開催し、11年からはクラスを超えて「おにぎり会」のメンバーにも声をかけることとなったので振るって参加をおすすめする次第です。ただし、この会は1期生限定。

***会報 14号(2021年)から**



『一期会』

1期 井料 京子

秋晴れの11月23日、1期生総勢48名、恩師4名の出席で賑やかに開催された。
高塚さんの開会の辞が始まり、幹事代表・桑村さんの校歌CD作製のいきさつ、同窓会への賛助金の増額をお願い等話される。



山本さんの音頭で乾杯。84歳の濱田先生は毎回宝塚市よりご出席くださったって、昔の話をされ、よく覚えていらつしやると感心した。
飯盛先生は源氏物語の講義をされていらつしやるのとこと、田村先生は町会の親睦のこと、佐藤先生はお孫さんのお話など楽しく聞かせていただく。その後、懇親会でご馳走を食べながら和やかなひとときを過ごした。
写真撮影、CDに合わせて校歌斉唱と進み、安宅さんの閉会の辞で散会した。

***会報 16号(2013年)から**

一期会 恩師5名が出席

1期 井料 京子

11月23日、恩師5名、同期生43名の出席のもと開催された。

まず亡くなられた方々に黙祷を捧げ、記念撮影。渡辺一善さんの司会で始まった。

濱田先生はお仕事、飯盛先生は源氏物語の講義、佐藤先生は絵を描いたり教えたり、中村樗先生は歴史の講座、田村先生は体育の役員と先生方が現在も情熱を持って関わっているお仕事があるので、若々しく生きていらつしやるのだと思われた。桜井先生が94歳で運転されたり絵を描いたりお元気でいらつしやることも披露された。

会場にはミニ作品展も開催され、手作りの人形や帽子、干支の動物が飾られ、華やかさを演出していた。



一期傘寿の会 そして最後の同期会

桑村 益夫

昭和25年に卒業した1期生の最初の同期会は、昭和51年に12名の恩師をお招きし、101名が参加、母校の体育館で開催されました。

その後、平成元年より「二期会」の名のもとに、故山田齊氏（『市川二中五十年史』編集委員長）が幹事代表となり、四年に一度開催していました。平成18年以降は桑村が代表幹事となり、二年に一度開催してきました。

しかし、恩師のご高齢化と1期生の大半が傘寿を迎えたことから、平成26年11月22日、山崎厚生年金基金会館に於いて、濱田龍二、草深清、飯盛宏、佐藤千寿子、中村樗の5名の恩師をお迎えし、40名の同期生が参加、今回を以って最後とする「一期傘寿の会」を開催しました。濱田先生は関西の宝塚から出席下さいました。細谷廣澄氏の開会の辞と司会で始まった会の冒頭で、桑村が代表幹事として挨拶し、過去2年間に鬼籍に入られた10名の同期生（林不二夫、山田一清、折笠智子、山田齊、諸隈肇、遠藤穰、藤野八重子、奥村和江、平林節、土田武義）に黙祷を捧げたあと、同窓会が17年前母校の創立50周年を機に再発足して以来、役員各位の尽力と会員の支援により順調に発展し、今や9,500部以上の『会報』を同窓生に配布するに至っていることを報告し、同窓会への財政的支援を要請しました。

次いで、ご高齢にも関わらずご参加下さった5名の先生方から、過去60余年を振り返っての感慨深いお言葉を頂戴しま

した。

我々より数年若い方々でも想像し難いことと思いますが、終戦2年後に市川二中が開校した当時は、校舎を真間小から間借りし、先生方も校長、教頭他数名の方を除き、師範学校を卒業し大学進学を目指しておられた方や、東大の学生に代用教員をお願い

するという教員不足の状況でした。このようなお若い先生方は、僅か2年足らずで学校を去られました。我々1期生に愛情とも申すべき深い思いを抱かれ、中でも濱田草深、飯盛各先生が現在に至るまで同期会に参加して下さったことは、筆舌に尽くし難い感謝の気持ちで一杯です。

先生方は、こもこも二中時代の楽しい思い出を語られ、「同期会は最後となっても、今後も折に触れ集まってお互いの絆を大切にするように」とおっしゃられました。

市川二中「一期傘寿の会」
平成26年11月22日



山本洋之氏の乾杯の音頭で盛り上がった会場には、平成26年度の同窓会総会でも展示された「芸ぽんさい」作家の木賀輝子氏の作品が金屏風を背に華を添え、最後の同期会を惜しむ懇談の輪が賑やかに広がりました。「人類はこの危機をいかに克服するか」と題する本を共著出版した安藤頭氏が、GDPを基準とした国益優先の政策から、地球の持続の可能性を高め、人類の発展を目指す新しい基準作りを提案する一方、細谷廣澄氏が飛び入りで日本の教科書（国語、音楽）の歴史を披露するなど、1期生らしいインテリジェンスの高い懇親会となりました。

最後は松本茂子氏の指揮の下、二中吹奏楽部と卒業生有志によるCDの伴奏で、校歌（作詞者は前出の濱田先生の御父君）を高らかに斉唱し、高塚彰一郎氏の恩師のご参加を謝し、「今後もお互いの絆を大切に健康第一で過ごしましょう」との閉会の辞のあと、先生も含め大勢の方々が同窓会への賛助金を納めて下さり、散会



♪ 声高らかに校歌斉唱 ♪

しました。

最後となりましたが、改めて先生方の「二期傘寿の会」へのご参加を謝し、益々のご健勝を心よりお祈り申し上げると共に、同窓生を含め同窓会への多大のご支援を頂いたことに対し、厚く御礼申し上げます。

※草深先生は「会報13号」に校歌作詞の経緯を、濱田先生は「会報15号」に二中時代の思い出を寄稿されています。



おにぎり会報告

1期 岸田 弘

(第54回) 2016年

4月1日(金)：参加者20名。市川散策も最終回となり、好天にも恵まれ、JR市川駅からバスで真間山下まで乗り、徒歩で真間山の弘法寺から手児奈堂、亀井院、須和田公園に行き昼食となった。この場には在校中大変お世話になった佐藤千壽子先生がわざわざ来てくださり、楽しいおしゃべりの時間になった。

その後、郭沫若記念館の芝桜と館内の見学、真間小学校(1期生が在学当時は真間国民学校)を垣根の外から見学した。入学時に5組編成だったので、入学式の日



54回おにぎり会 真間山～須和田公園 佐藤先生と1期生 17名 2016/4/1

各組1本計5本の桜を植樹をしたが、なにせ1941年で75年前の話であり、現在も桜を咲かせているかの確認はできなかったが、それらしき桜が1本あったことにして大笑いした。その後、喫茶店で話を咲かせた。

(第55回) 2016年

10月13日(木)：参加者19名。今回から市川を離れ、名所旧跡を訪ねることで、JR東京駅丸の内南口に集合。皇居に向けて歩き始めると、左側にショッピングセンターになった「KITTE(東京中央郵便局)」を見ながら、「丸ビル」の前に立ち振り返ると、我々が生まれる前の「東京駅的全景」を見て、皇居に足を運んだ。皇居には「行幸通り」を通じて「坂下門」から「皇居正門」について。最近外国の観光客が増えたが、これも

同様で日本人より外国人の方がかりであった。「皇居」をあとにして、「日比谷公園」に向い、「日比谷松本楼」で食事を摂った。参加者の心掛けが良いため、全員ガーデンテラスに座ることができ、カジュアルな雰囲気「ハイカラ洋食」で、リフレッシュをした。食後は、東京国際フォーラム内の「相田みつお美術館」と「KITTE」の見学と、自行動で1日を楽しく過ごした。今回は3期Iさん、5期Iさん、Mさん、Yさん、16期Sさんと多彩な参加となった。



*会報 21号(2018年)から

おにぎり会・報告 1期 岸田 弘

第56回：4月5日(水) 参加者19名

春の観桜会では、最高の晴れ日和であっただけでなく、最高の見ごろで、参加者一同は感激の連続であった。JR千駄ヶ谷駅に集合、新宿御苑千駄ヶ谷門から入園し、芝生広場、中の池を通り、いつもは芝生に敷物をして酒を愛でながらおにぎりを頬べるが、参加者の希望でイスのある場所ということで、「エコハウス・レストランゆきのり」でランチにした。メニューも多彩である上に比較的値段が安く、おしゃべりもはずみ大好評であった。

食後、写真撮影をし(写真右)、少人数グループに分かれ、各自「日本庭園」「フランス式整形庭園」「イギリス風景式庭園」を見学した。今回は3期Iさんが参加。

第57回：10月19日(木) 参加者16名

秋は春と一転して、雨と12月位の寒さに見舞われてしまった。半蔵門線の事故の関係でスタートは遅れたが、訪問個所が近隣のため問題なく開催された。まず、岩崎家三代が築いた名石の庭である「清澄庭園」を見学。明治の代表的「回遊式林泉庭園」であるが、残念ながら冷たい雨で、ゆっくり楽しめなかった。

ついで、ランチは深川名物の「深川めし」と「深川丼ぶり」を名店の「深川釜匠」で味わった。あさりとしめじをこだわりの



みだしてふっくら炊き上げ、お米にしっかりと出し汁が沁み込んだ江戸深川の味であった。次に「江東区深川江戸資料館」を訪問し、深川ゆかりの人物と深川の歴史、江戸の町並みの再現を堪能した。今回は5期IさんとMさんと16期Sさんが参加。